



# 令和5年度 みやぎ小・中学生 いじめ問題を考えるフォーラム

仙台市を除く県内公立小中学校児童生徒が集い、学校の枠を越えて「なぜいじめは起こるのだろうか。」「いじめのない学校にするために私たちにできることは何だろうか。」などについて話し合う「みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラム」を開催しました。

平成24年度に始まり、10回目となった今回、自分たちの手で、いじめのない、明日も行きたいと思える学校をつくりたいという強い思いを込めて「いじめ防止メッセージ」を作成しました。

- 日 時 令和5年7月24日(月) 13:00～16:20
- 場 所 県庁2階講堂
- 参加者 仙台市を除く県内公立小・中学校児童生徒70名
- 共 催 宮城県PTA連合会
- 内 容(概要)

## (1)開会行事

### 挨拶

佐藤靖彦県教育委員会教育長が、「本日、フォーラムに参加していただいている皆さんをはじめ、これまで参加されたたくさんの先輩方が、学校や地域のリーダーとして、かけがえのない仲間を守る活動に取り組んでいただいていることは心強い限りです。

全ての学校が、一人一人が安心して楽しく過ごすことができ、誰もが「明日も行きたい」と思える場所になることを切に願っています。」と挨拶しました。



## (2)ワークショップ

中学生2名と小学生2名を基本とするグループ編成により話し合いを行いました。「なぜいじめは起こるのだろうか。」「いじめのない学校にするために私たちができることは何だろうか。」などについて、積極的に意見交換が行われました。

その後、中学生4名、小学生4名に人数を増やし、意見交流したことを基に、考えたことや大切にしたい思いを宮城県の小・中学生に発信するメッセージとしてまとめました。意見の交流を通して様々な気づきがあり、いじめについて多方面から考える有意義な話し合いが展開されました。



## 話し合いで出された意見（一部抜粋）

「なぜいじめは起こるのだろうか。」について各自が考えてきた意見を交流する。

- ・苦手意識がある(相手の良いところが分かっていない)。
- ・ちょっとしたずれ、誤解や考え方の違いから。
- ・ストレスから八つ当たりしてしまう(気持ちを相手にぶつけてしまう)。
- ・相手を思いやる気持ちを持っていない。
- ・軽い気持ちから発展し、深刻になっていく。
- ・最初は愚痴だったものが、だんだん悪口に変わっていく。
- ・相手より有利な立場になりたい。
- ・考え方や価値観の違い。
- ・相手の気持ちを考えていない。
- ・コミュニケーションが足りない。
- ・自分の気持ちを優先させてしまう。
- ・ふざけてやっている楽しいことだと勘違いしている。
- ・個性を欠点だと見てしまう。
- ・自分の考えを持っていない(流されてしまう)。
- ・相手の良いところや憧れているところを素直にほめられない。

「いじめのない学校にするために私たちができることは何だろうか。」について考える。

- ・いじめのない→0%は難しいかもしれない。
- ・まず、(フォーラムに参加している)私たちからいじめをしない。
- ・相手のよいところを探したり、理解したりする活動を行う。
- ・「自分が言われて嫌な言葉」だけでなく、「相手が言われて嫌な言葉」なのかどうかを考える。
- ・団結することの楽しさをみんなに知ってもらう。
- ・他学年との交流の場面を積極的につくっていく。
- ・いじめが起きていることを伝えやすい環境づくりをしていく。
- ・一人でいる子に声を掛けてみる。
- ・感謝をしっかり伝える機会を大切にしていく。
- ・いじめに対する理解を深める(法律があることなどを理解してもらう)。
- ・いじめの怖さを知らせたい。
- ・相談しやすい雰囲気、環境をつくっていく(友達・先生)。
- ・嫌なことがあった時に、きちんと言葉で伝えられるようになる(コミュニケーション)。
- ・個性を認める。
- ・注意し合える雰囲気。
- ・あいさつなどのコミュニケーションを大切にして関わりを持つ。
- ・いじめられている人だけでなく、いじめている側の心のケアもする。
- ・一人一人が自分はいじめをしないという強い意志を持つ。
- ・ごめんねとありがとうを大切に。
- ・広い視野を身に付ける。
- ・周りに頼る勇氣、頼られた時に対応する環境。
- ・クラス全員と時間を決めて話す時間をとる(一人一人を知るきっかけになる)。

### (3)閉会行事

#### 感想発表

大河原町立金ヶ瀬小学校 兎内 慈季 さん

大郷町立大郷中学校 赤間 日和 さん

参加者を代表して、二人から感想発表がありました。最初は、緊張や戸惑いがあったが、グループで話し合っていくうちに打ち解け合い、いじめについて深く考えることができたこと、小中学生が同じグループで話し合ったことで新たな発想が生まれたこと、今日のフォーラムの話し合いを学校での取組に生かしていきたいという決意などが発表されました。



#### (4)講評(PTA 連合会浅野直美会長)

宮城県 PTA 連合会浅野直美会長から講評をいただきました。講評の中で真剣に話し合う姿についてお褒めの言葉をいただき、大人もしっかりといじめをなくす取組をしていくと話されました。また、話し合ったことを各学校での生活や取組に生かしてほしいとの期待も寄せられました。



#### (5)挨拶(千葉潤一参事兼義務教育課長)

千葉潤一参事兼義務教育課長が、「どのグループもいじめの問題に対して、真っすぐに向き合い、本気になって考えようとしている姿や自分の考えや意見を積極的に述べ、真剣に意見交流をしていた姿が見られました。今日話し合ったことを皆さんの学校の仲間と話題にし、各学校や地域で生かしてほしいと思います。」と挨拶しました。



#### 【主な感想】

- いじめの対策などで自分では注意や先生に言うことを思いついたけれど、相手の気持ちを考えたり個性を尊重していくなどの解決方法を聞き納得することができたので色々な視点から物事を考えることは大切だと思いました。いじめ問題について改めてよく考えられたよい機会になったと思いました。



- いじめについて深く長い時間をかけて考えたことがなかったけれど、みんなの意見を聞いてなるほどと思うことがたくさんありました。このような経験はなかなかできないと思うので参加できてよかったと思いました。

- 今回、私は初めて他校の生徒さんたちといじめについて考えることができました。私はいじめについてよく知っている方だと思っていましたが、みんなの意見を聞くことで、こんな考えもあったのか！と沢山のことを気付かされました。私の



知る限り、私の学校にいじめはありませんが、今回たくさん吸収したことを学校に持ち帰って学校全体でいじめについての知識を深められたらと考えました。いじめはあってはいけないことですが、時に起きてしまうこともあると思います。そんな時、生徒同士で解決できるような雰囲気をつくれるのは生徒だけだと今回のフォーラムで実感したので、そんな学校づくりが大切だと考えました。

